



イソブキ便り

NO.4 平成24年 下半期号

須佐連絡先 080-3458-0925 / 0557-23-3501 mamo@knossos.jp

平成24年度議員視察研修 報告 part.1 (武雄市編)

10/22、24にかけて、議員研修で九州に視察に行ってきました。はじめの視察先は佐賀県の武雄市です。昨年、樋渡市長が「facebook 係」を作ったことで有名ですが、今年には「facebook City 課」に昇格して一躍有名になりました。今回私たちの委員会として勉強させてもらったのはFBを使った行政改革、とりわけ防災や図書館運営、通販の仕組み構築などです。特に防災面では、消防署と消防団との連絡、あるいは市民からの情報を収集する方法としてFBをいかに活用するかという点をお聞きしました。



武雄市役所内にて担当者の説明を聞く、文教厚生常任委員会のメンバー。皮肉にも樋渡市長は三島で講演でした。

part.2 (熊本市編)

翌日は熊本に移動、熊本市市民病院でジェネリック医薬品に関する考察をうかがいました。ジェネリックとは「一般的な」、「ブランドに囚われない」といった意味の英語で、薬学では後発医薬品のことを指します。



熊本市市民病院前にて、熊本市はつい最近政令市になった勢いのある都市です。3次救急体制も充実しています。

新薬の開発から20年くらい経ち、その特許が切れたあとに発売される同一成分で同じ効能の薬を「後発医薬品」、または「ジェネリック医薬品」といいます。後発品は、開発経費がかかりませんので、先発品に比べ経済的です。医療費の高騰で頭を悩ませる自治体が多い中、東伊豆町も例外ではなく、

ジェネリックの取り組みが進んでいます。

part.3 (熊本防災編)

熊本では黒川温泉で一泊し、地域の特色を生かした観光のまちづくりを視察した後、阿蘇山を周遊して熊本空港まで戻りました。

阿蘇は記憶にも新しい九州北部豪雨があった所ですが、死者行方不明者30人を超え、いままなお行方不明者がいる大変な災害でした。外輪山を超えていくと、のどかな草原で牛がのんびり草をはむ姿が見られましたが、次の瞬間、悪夢が目の前をよぎります。草原の所々がけっこう深いところからえぐられ、小高い丘などは深層崩壊が起きていて、ヘアピンカーブではガードレールもろとも路肩が落ちていきます。あれから3か月たちますが、まだまだ九州北部豪雨の爪あととは消えていません。

息をのむ光景を後にし、車は熊本空港に到着です。ここで、県の防災消防航空隊の隊長さ

んから被害の状況を伺いました。防災ヘリでの救出は16人、自衛隊ヘリでの救出は16人だったそうです。それでも、いまだに2名の行方不明者がいることに肩を落としています。

近年、災害救助における防災ヘリの需要は増えています。ただ、夜間や荒天時に飛行できないなど制限があるのでジレンマを感じることもあるようです。



熊本県にはヘリが一機なのに対し、静岡県は二機保有しています。賀茂地区にも2次3次救急医療の拠点を求めます。

今回、2泊3日で視察を終え、なんだか九州という土地が首都圏などより先進地のような感じがしました。明治維新も西から、平成維新も西からかもしれません。

・新人議員として町のため、伊豆半島のために奮闘します (ノハ ヽ)

・詳しい内容は、ブログ・議会だより・役場ホームページの議会議事録をご覧ください。

・Facebook / Twitter @MamoruSusa HP http://knossos.ip/aiin_mamoru/face1.htm



東伊豆町版 事業仕分け

私が6月議会で「行政改革」について質問したところ、総務課長から「事業仕分けを行う」と答弁がありました。私はその時、非常に驚いたのを覚えていますが、その後の研修などを経てこの日に漕ぎつけました。

事業仕分けというと運航議員の「なぜ一番じゃなきゃいけないんですか?」というコメントを思い出しますが、国の事業仕分けとは違い議員が仕分けるといふ形は取りません。「構想日本」というシンクタンクと町から指名した仕分け人により仕分けられました。

儀式褒賞事業、学校給食センターの管理事業、入湯税の納入事務にかかる委託金、そしてなんと目も注目されたのが、「町観光協会の補助金」で、けっこうギャラリーも多かったと思う。なにせ六つある温泉場に額の多少はあれ補助金を払って、今回やり玉に挙がったのはその元締め? 格の町観光協会に四千万の近くの補助

金が渡っていてイベント事業などに充てられている。町が入湯税として一億円以上の資金をプールしていることを考えれば、基幹産業の観光業を支える補助金ということでは理解できる部分もあるが、使い道に関しては費用対効果を検証しなくてはならないでしょう。詳しい内容はブログなどをご覧ください。(10/27)



仕分けでは職員のプレゼン能力が問われました。研修が必要になるでしょう。

第6回東部 MICE 振興議員ネットワーク勉強会

上半期でも紹介しましたが、東部 MICE 振興議員ネットワークは、昨春秋に結成された当選1回を中心とした市町議員

の勉強会です。(11/2/3)

今回は、東伊豆町の魅力を知ってもらおうと、会の皆さんをお招きして観光スポットをご案内しました。勉強会の第一部は細野高原と町営の風力発電施設視察です! 真ん中のカメラスタンドに生首をさらしているのが、随行議員、スサです! 皆さん一応に「こんなところ知らなかった」「山焼はいつ行われるのか」など興味深げに尋ねてらっしゃいました。



熱海市の市長さんも細野高原を散策されました。

続きまして第二部! 奈良本公民館にて、伊豆市長下田市長を交えてシンポジウムの開催です。MICEの具体的実践について意見を出し合いました。私はジオパーク構想を天城山を

中心に検討を進めるべきでは? と提案させていただきました。今後、世界ジオ認定に向けて国際会議も開かれるかもしれませぬので...

天城周辺の自治体はそれぞれ天城の魅力を発信していますが、「ジオ」をキーワードに「伊豆は一つ!」のコンセプトでいきたいものです。富士山もいいですが天城山もね。



東部議員はじめ、熱海、伊豆、下田の市長が奈良本公民館に来てくれました! みんなのどかですごいねえ~と。区長、副区長も駆けつけてくれました m(_)_m

熱川温泉まちづくり協議会

これまで熱川温泉の活性化を考えてきたのですが、これをどう実現するか、正直あまりみんな関心がないというか、いろいろとまち起こしの案が出るんだけどそれで終わり... という感じだったけど、今年、工学

・新人議員として町のため、伊豆半島のために奮闘します (ノハ ヲ)

・詳しい内容は、ブログ・議会日より、役場ホームページの議会議事録をご覧ください。

・Facebook / Twitter @MamoruSusa HP http://knossos.jp/diin_mamoru/face1.htm

後援会大募集!



院大学の西森教授と学生さんたちが入って温泉場のみんなも奈良本に人たちがも目の色が変わったように思う。

きのうは24年今年最後の会合ということで、多くの方が集まりました。ロイヤルホテルの跡地をどう再開発するか、具体的な案が出てきました。その模型をみんなで見てあーだこーだと言っている所。大袈裟に言えばそんな感じですよ。(12/2)



こんな真剣になっている温泉場の人たちを見たことないほど!?

ジオパーク情報交換会

伊東市役所で、ジオパーク情報交換会がありました。11市町60人の議員が一堂に会し、各市町の現状などを報告し合いました。東伊豆町では、細野高

原のすすきイベント、各ジオサイトとの連携、アクセス道の整備、教育旅行への取り組みなどを報告しました。それと、大島近海沖地震の時に国道が崩壊し、今では秘境として知られるようになった「ハサミ石」についても紹介しました。海からジオを見るという取り組みも点でとらえるのではなく線で結ぶことが大切になります。

私は会議の場でも言いましたが、伊東市はじめ下田市、南西、松崎、賀茂の市町では教育旅行に力を入れてます。そういった部分で教育に...ということとは今後取り組んでいかなければならないと思います。特に東伊豆町もそういった方向性を重視しなくてはならないでしょう。

首長と議員が共通認識を持ち、住民にしっかりと情報を提供してジオの価値を深めること、そして、専門的な知識をもつ人を育てていくことも大切です。“伊豆は一つ”をいま実践するべきだと感じました。(1/23)



「一過性」という発言もありました。お手盛りイベントの予算付けに警鐘も。

故郷にポスターを飾る町民運動!

今年もまた東村山市役所にポスターを掲示していただきました!個人的な活動ですが、少しでも雛のつるし飾りと河津桜を首都圏をはじめ全国に広めたいと思っています。

私はこの「故郷にポスターを飾る町民運動」を全町民に呼び掛きたいと思っています。誰でもできるセルフキャラバンです。誰にでも故郷があります。久しぶりに行けば懐かしい話に花が咲くかもしれません。懇意にしているところをお願いしてポスターを貼ってもらいましょう!(2/8)

片田敏孝先生の講演会

群馬大学大学院教授、片田敏孝先生の講演会が24日(下田)でありました。先生は、学校や家庭、地域に視点をいた防災教育を進めている方で、テレビなどでもおなじみです。特に今回の東日本大震災では、「釜石の軌跡」を起こした張本人としても知られます。

先生は、釜石の子どもたちにしつこいほど「逃げる」と諭したという。半ば「オオカミが来たぞー」の津波警報も、出たら必ず逃げるんだと諭しました。それは、1100の津波の悲劇、100回のうち99回なんでもなくとも、それは来なくてよかつたとしなければならぬ。「逃げて損した」と思ってはならないということ。このことは、有史以来何度も被害を受けてきた三陸の人たちが一番よくわかっていると思うのだが、残念ながら時代とともに風化してしまつた。慣れもあつたかもしれない。親や祖父母が「大丈夫だー」と言つたら子どももそ

・新人議員として町のため、伊豆半島のために奮闘します (ノ^ ^)ノ

・詳しい内容は、ブログ・議会だより・役場ホームページの議会議事録をご覧ください。

・Facebook / Twitter @MamoruSusa HP http://knossos.id/aiin_mamoru/face1.htm

後援会大募集!



う思う。だから子どもにも言うて聞かせることが大切と片田先生は言っていた。結果、上へまたその上へ逃げて命が助かった。じいちゃんばあちゃんの手を引いて逃げた子もいたという。

締めくくりは「防災教育がつくる防災文化へ」との話、「10年たてば大人になる。さらに10年たてば親になる。」まさにその通りだと感じました。かなり時間もオーバーした白熱した話に、席を立つ人もほとんどなく、みな感動したと思います。とても貴重な時間でした。

昨年8月に発表された三連動地震による被害想定で、33mの津波が予想される下田市、東伊豆町も11mが想定されています。そのことがあつての今回の講演会、先生は最後に「想定にとらわれるな」とおっしゃって締めくくりました。津波タワーだ防波壁だと世の中は言いますが、最後は逃げる力、これが言いたかったのだと思います。(2/28)

東部総合病院21床増床!

賀茂地域医療協議会において、伊豆東部総合病院は21床の増床が認められ、今の139床から160床を整備することになりました。今年4月に改修工事が始まり9月に完成、10月から運用開始が予定されています。

診療科目に消化器内科、循環器内科、腎臓内科(透析)、小児科、産婦人科を新設するということで、町民の希望に沿った診療科目が新設されることになりました。私もまちづくり協議会の住民生活部会長として特に小児科、産婦人科の確保をお願いしてきただけに感慨ひとしおです。

消防長から白田浜近くの町有地をへりポートにしていると聞きました。現在指定されている熱川中学校の負担(騒音・飛び砂・水たまりなど)を考えると、今更な場所も地域住民合意や突風などちょっと不安が残ります。しかし、医療の充実とドク

ターヘリの運航で、町の二次救急医療確保のめどが立ったこととなります。(2/28)

高規格救急車寄贈式

高規格救急車の寄贈式が町消防本部でありました。今回寄贈していただいたのは、JA共済様(略称で失礼します)とJA伊豆太陽農協様です。大変ありがたいことです。

中には救急救命のため機材一式が搭載されていることがわかりましたが、自分も防災士としてこれらの機材一つ一つを説明できるようでなくてはなりません。(3/6)



「トヨタハイメディック」という車種で定員7名。防振ヘッド、ストレッチャー、気道確保用資器材、酸素吸入器、自動心肺蘇生機など高度な機能を搭載します。

3月議会 予算委員長就任

3月13日に行われた一般質問の内容は以下の通りです。
1 熱川地区の道路整備について
2 観光政策と伊豆ジオパーク構想について
3 森林事業と鳥獣害対策
町長・当局の答弁にこれといった光を見つけないことはできませんでしたが、稲取航路の復活については好感触を得ました。稲取港は、現在の基準ではジェットホイルなど大型のものが入ることはできませんが、防災の観点から自衛艦が入港できるような港湾整備を進めることが大切であるとの見解を得ました。また、その方面で交渉中とのことです。
南海トラフの巨大地震が騒がれる昨今ですが、町は西相模や首都直下型、そして最近きな臭い伊豆諸島沖の地震に対しても対処しなければなりません。駿河湾も大切ですが、東伊豆は相模湾。ここが大切です。
なお、3月議会において特別会計予算委員長を務めさせて頂きました。よい経験でした。